

論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

喜多 洋平

主論文の題目
および
掲載・審査委員

題目 Fact-Finding Survey on Health Literacy Among Japanese Predialysis Chronic Kidney Disease Patients: A Multi-Institutional Cross-Sectional Study (日本の保存期慢性腎臓病患者におけるヘルスリテラシー実態調査：多施設共同横断的研究)

掲載誌 Clinical and Experimental Nephrology (in press)

主査 佐々木 信幸

副査 曾根 正勝

副査 木田 圭亮

[論文の要旨・価値]低いヘルスリテラシー（HL）は慢性疾患の管理不足や有害な転帰と関連しているが、日本における非透析慢性腎臓病（CKD）患者のヘルスリテラシーに関する報告は少ない。2019年8月から2020年2月にかけて、成人の非透析CKD患者を対象に、European Health Literacy Surveyの日本語版および患者背景調査（学歴、収入、社会活動、運動習慣）を実施した。健常日本人集団の平均HLスコアで分けた2群間における臨床パラメータを比較し、加えてHLS-EU-Q47に含まれる身体活動と運動に関連する5項目を除いた42項目の中央値についても検討した。200名の患者から有効回答を得た。全HLスコアの中央値は25.2点で、高HL群（25.3点以上）では男性の割合が低く（56.7%vs70.9%、 $p=0.038$ ）、社会活動が高く（69.1%vs48.5%、 $p=0.003$ ）、運動習慣が高い（36.1%vs13.6%、 $p<0.001$ ）ことが示された。多変量解析では、社会活動 [OR (95%CI) ; 2.12 (1.16-3.89)、 $p=0.015$] と運動習慣 [OR (95%CI) ; 2.39 (1.16-4.90)、 $p=0.018$] のみが有意な変数として抽出された。日本人の非透析CKD患者におけるHLは、高い社会活動と運動習慣と関連していた。

[審査概要]審査は主査1名、副査2名、陪席1名のもと、約20分のプレゼンテーションおよび続く約40分の質疑応答によって実施された。質疑応答では特に研究デザインと結果の解釈について多くの質問がなされた。デザインにおける様々な制限とその理由、欧米と日本の医療制度・意識の違いに由来すると思われる結果の差など、審査者の質問に的確に回答することができた。

最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]臨床的に重要な課題について適切に研究を遂行し、その意義と今後の展開について明確なビジョンとともにわかりやすいプレゼンテーションを提示できた。幅広い知識のもと、今後も医学の発展に寄与する研究能力を有していることが確認できた。英語読解能力については英語論文の一部を概ね問題なく和訳可能であることを確認した。申請者は学位授与にふさわしいと判断した。